Weekly Report Niigata

2008～09 年度
国際ロータリー会長
李　　東　建

夢をかたちに
Make Dreams Real
2008～2009年度 国際ロータリーのテーマ

2008～09 年度
新潟ロータリー会長
柴　田　史　郎

新潟 RC　6月第　2 例会（2009.6.9）№2803

(1)　ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2)　柴田　史郎会長挨拶

先般、ＷＢＣにおいて「サムライ・ジャパン」が見事２連覇を飾りました。誠にご同慶の至りです。ところで監督を務めたのは今回原さんでしたが、どういう訳か「原・ジャパン」ではなく「サムライ・ジャパン」でした。ネーミングですから、別にどうでも良いようなものですが、私はずっと「サムライ」に引っかかっておりました。

サムライと聞くと皆さんはどのようなイメージを持たれるでしょうか？鎧兜に身を包んだ凛々しく颯爽とした若武者でしょうか。或いは［武士道］という言葉から連想される勇、仁、礼、誠、名誉、忠義、潔さなど、そしてだまし討ちなどと全く縁のない正々堂々としたフェアプレーなどでしょうか。

しかし、調べてみますと［武士道］とはそのようなイメージとは全く異なるもののようです。歴史的に語られてきた本来の「武士道」という言葉は、文献的には室町時代頃からはっきりしてくるようです。これは戦場から生まれてきた論理ですので、勝つことを第一義とし、そのためには手段を選ばないという精神であります。「犬とも言え畜生とも言え、勝つことが本にて候」というくらいですから、だまし討ち、夜討ち、皆殺し、寝首をかくなど何でも有りなのです。非難されるどころか、これらは智謀、知略としてむしろ称賛されてきました。文献的に平家物語、将門記、保元物語、今昔物語、下っては戦国時代近辺の書物に実例が沢山出てきます。確かに、中世以来合戦のルールらしきものもある程度は存在していたようですし、又おなじみの大音声で名乗りあってからの一騎打ちなどもあったのでしょうが、所詮合戦は勝たねばならなかったのです。

本来の「武士道」と、私共が「武士道」という言葉を聞いて抱くイメージとの間に乖離が生じた背景には、江戸時代という時代背景と明治に入ってから新渡戸稲造の［武士道］という本が出版されたことがあげられると、［戦場の精神史］（武士道という幻影）（NHKブックス）を書いた佐伯真一氏はのべています。太平の江戸時代にはいり、戦わぬ武士、官僚となった武士は儒教の影響の下、民を治める立場から戦場の論理・倫理だけでなく一般社会の論理・倫理を取り入れざるを得ず、「武士道」は「士道」へと変容し、名誉を重んずる武士の精神性がフェアプレーにも似た感覚ないし美意識を生んでいきます。一方明治にはいりますと、古来の古典的文献における「武士道」を全く知らなかった新渡戸稲造が、歴史的考証もなく、ただ単に自己の脳裏にある武士像を膨らませて、創作としての［武士道］という本を書いたようだと佐伯氏はのべています。日清戦争の勝利、鹿鳴館、富国強兵などの時代背景とあいまって、古来用いられてきた「武士道」という言葉は、この本により全く別の意味を持つ言葉としては生まれ変わってしまったということのようです。

１００年の歴史を刻んだロータリーも時代と共に変質・変容をしていくわけですが、ロータリーの綱領・モットー・２３－３４決議などに示される本質的なところを放棄してしまったのでは「ロータリーもどき」に堕してしまい、別物になってしまう危険性があるように思いますがいかがでしょうか。

(3)　幹事報告（石井　和弘次期幹事）

・次年度事業計画を6月10日までに提出願います。

・例会後、次年度理事会を杉の間で開催致します。

⑷　卓話「水と土の芸術祭」

新潟市長　篠　田　昭　氏

６月１６日の例会予定

卓話「日本海沿岸自動車道について」

国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所

所長　森若　峰存　氏

新潟ロータリークラブ　ホームページアドレス

http://www.niigatarc.jp/